

日豪EPA交渉について

平成20年2月
農林水産省

日豪EPAをめぐる動き

- 共同研究報告書取りまとめ
(2006年12月11日)

【報告書の抜粋】

交渉は、あらゆる品目と課題が取り上げられ、また、「段階的削減」のみならず「除外」及び「再協議」を含むすべての柔軟性の選択肢が用いられるものとして開始される。

- 衆議院、参議院それぞれの農林水産委員会において、全会一致で決議を採択

【決議のポイント】

- ① 米、小麦、牛肉、乳製品、砂糖などの重要品目が、除外又は再協議の対象となるよう、政府一体となって全力で交渉すること。
- ② WTO交渉や、米国、カナダ等との間の農林水産物貿易に与える影響について十分留意すること。
- ③ 交渉期限を定めず粘り強く交渉すること。重要品目の柔軟性について十分な配慮が得られない場合は、交渉の継続について中断も含め厳しい判断をもって臨むこと。
- ④ 国内農林水産業の構造改革の努力を加速し、国際競争力の強化につながるよう全力を挙げるとともに、交渉の帰趨いかんでは、国内農林水産業、関連産業及び地域経済に及ぼす影響が甚大であることを十分に踏まえて、政府を挙げて対応すること。

〔(衆):2006年12月7日〕
〔(参):2006年12月12日〕

- 日豪首脳会談において、2007年から交渉を開始することに合意
(2006年12月12日)

【首脳会談における総理の発言要旨】

交渉にあたっては、センシティブティーに十分配慮し、特に日本にとっての農業等の重要性を認識しながら、相互利益の実現を目指す考えである。

- 第1回交渉会合
(2007年4月23日・24日 豪州(キャンベラ))

交渉の枠組み、進め方の議論が行われ、交渉の範囲、開催頻度等について認識を共有。

- 第2回交渉会合
(2007年8月6-10日 東京)

我が国の農林水産業をめぐる状況及びその重要性について説明。更に議論を継続することとなった。

- 第3回交渉会合
(2007年11月5-8日 豪州(キャンベラ))

前回会合に引き続き、我が国の農林水産業の重要性について議論。

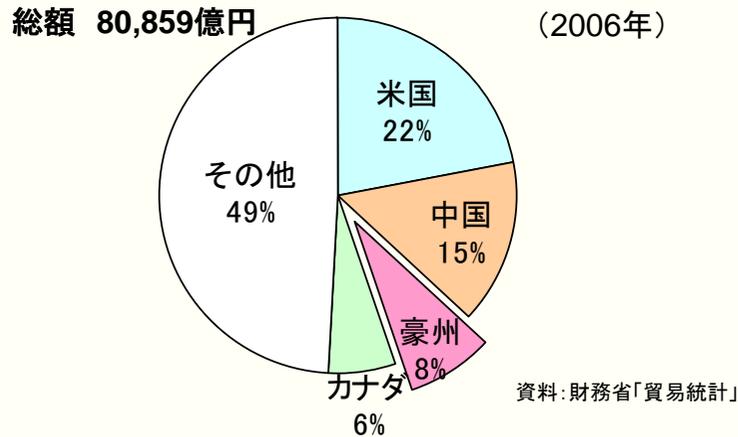
- 第4回交渉会合

本年2月下旬開催予定。(具体的な日程は外交ルートで調整中)

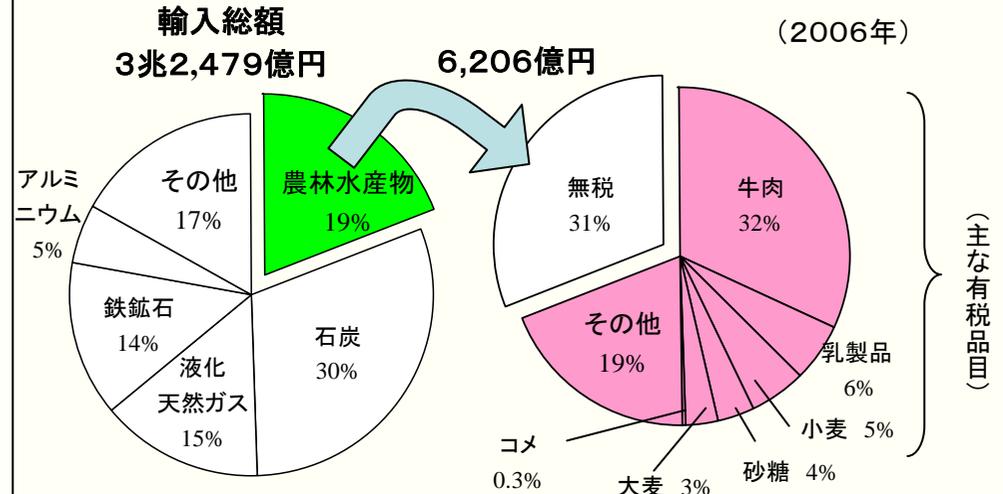
我が国と豪州との農林水産品貿易

- 我が国にとって豪州は、米国、中国に次ぐ第3位の農林水産品輸出国。
- 豪州からの輸入額の2割近くが農林水産品であり、その過半が牛肉、小麦、乳製品、砂糖等、我が国農業や地域経済にとって重要な品目。

農林水産物の主要輸入国



豪州からの輸入



我が国と豪州の国土・農業の比較

	日本	豪州	日本との比較
国土面積(百万ha)	38	774	20倍
農用地面積(百万ha)	5	447	89倍
平均経営面積(ha/戸)	1.8	3,385	1,881倍
国民一人当たり	0.04	22.9	573倍
農地面積(ha/人)			

資料:国土面積及び農用地面積はFAOSTAT(2002)。その他の指標は、日本は2005年(農林業センサス等)、豪州は2003年(豪州作物統計)。豪州の農用地の大半は放牧地。耕地面積は農用地面積の1割(48百万ha)であり、1戸当たりの平均耕地面積は365ha/戸。

豪州からの総輸入額と豪州への総輸出額との対比

(2006年)

輸入総額	3兆2,479億円
輸出総額	1兆4,531億円
輸入/輸出	2.24倍

資料:財務省「貿易統計」

豪州からの農林水産物の輸入額と豪州への輸出額との対比

(2006年)

輸入総額	6,206億円
輸出総額	49億円
輸入/輸出	126.58倍

資料:財務省「貿易統計」

豪州からの輸入額が上位の農林水産物の概要

品 目	関税率	輸入額 (億円)	対日輸出状況等
牛肉 (くず肉を含む)	38.5%	1,979	○ 日本の輸入先国としては、豪州が第1位(40.6万トン)、第2位がNZ(3.8万トン)、第3位が米国(0.7万トン)。 ○ 日本の牛肉の輸入量のうち88.1%を占める(2006年)。
チップ	無税	893	○ 日本の輸入先国としては、豪州が第1位(490万トン)、第2位が南アフリカ(276万トン)、第3位がチリ(178万トン)。 ○ 日本のチップの輸入量のうち35.6%を占める(2006年)。
小麦	・ 枠内無税 ・ 枠外 55円/kg	325	○ 日本の輸入先国としては、米国(300万トン)、カナダ(119万トン)に次いで第3位(113万トン)(2006年)。 ○ 日本の小麦の輸入量のうち21.2%を占める(2006年)。
ナチュラルチーズ	22.4%～ 29.8%	294	○ 日本の輸入先国としては、豪州が第1位(8.7万トン)、第2位がNZ(5.6万トン)、第3位がドイツ(1.1万トン)(2006年)。 ○ 日本のナチュラルチーズの輸入量のうち44.1%を占める(2006年)。
砂糖	71.8円/kg	230	○ 日本の輸入先国としては、豪州が第1位(55万トン)、タイが第2位(52万トン)、南アフリカが第3位(18万トン)(2006年)。 ○ 日本の砂糖の輸入量のうち42.6%を占める(2006年)。
牛の臓器・舌	12.8%	207	○ 日本の輸入先国としては、豪州が第1位(2.0万トン)、NZが第2位(0.5万トン)、メキシコが第3位(0.2万トン)(2006年)。 ○ 日本の牛の臓器・舌の輸入量のうち68.3%を占める(2006年)。
大麦 (裸麦を含む)	・ 枠内無税 ・ 枠外 39円/kg	184	○ 日本の輸入先国としては、豪州が第1位(83万トン)、カナダが第2位(34万トン)、米国が第3位(16万トン)(2006年)。 ○ 日本の大麦の輸入量のうち59.9%を占める(2006年)。
かつお・まぐろ類 (生・蔵・凍)	3.5%	175	○ 日本の輸入先国としては、台湾(8.7万トン)、韓国(4.3万トン)、フィリピン(3.0万トン)中国(2.8万トン)、インドネシア(2.3万トン)、マーシャル(2.3万トン)に次いで第7位(1.0万トン)(2006年)。 ○ 日本のかつお・まぐろの輸入量のうち3.0%を占める(2006年)。
ペットフード	無税	169	○ 日本の輸入先国としては、米国(17万トン)に次いで第2位(13万トン)(2006年)。 ○ 日本のペットフードの輸入量のうち27.5%を占める(2006年)。
菜種 (採油用)	無税	127	○ 日本の輸入先国としては、カナダ(194万トン)に次いで第2位(33万トン)(2006年)。 ○ 日本の菜種(採油)の輸入量のうち14.6%を占める(2006年)。

資料：日本の輸入量は財務省「貿易統計」

(豪州からの農林水産品の輸入総額：6,206億円(2006年))